

追 悼



寺 光彦氏を偲んで

公立大学法人 名古屋市立大学大学院
國本桂史

寺光彦氏が2015年10月19日に、御逝去されて1年になろうとしております。寺光彦氏は小職の母校である現・市立金沢美術工芸大学（：当時は金沢美術工芸専門学校）の先輩にあたります。

氏は1929年に陶器を営まれている家で誕生され、金沢美術工芸専門学校（現：金沢美術工芸大学）において意匠を学ばれて卒業され1953年名古屋に移られ三郷陶器に入社、1955年には第1回ジェットロ海外派遣意匠改善研究員として米国アートセンタースクール（現：アートセンターカレッジオブデザイン）に2年間留学されました。

帰国されると三郷陶器での製品デザインとともに、デザインの市場性を重視されて全国の地場産業でのデザイン指導を継続的に行われました。

15年間、勤められた三郷陶器をお辞めになられるとともにフリーランスのデザイナーとして活躍を始められ、多くの製品デザインに関わられました。当時、デザインの社会における重要性を積極的に謳われたお一人でした。

1975年名古屋造形芸術大学（現：名古屋造形大学）・名古屋造形芸術短期大学教授に就任され1987年には名古屋造形芸術大学（現：名古屋造形大学）・名古屋造形芸術短期大学の学長に就任されました。この当時は様々な活動をされており、中部デザイン協会理事長にもなられて後進の指導にも貢献されました。

1995年構想から開館まで5年間にわたり参加されていた豊田市美術館には開館と同時に初代館長に就任されました。この当時によくおっしゃられていたのは「ヒトの手の跡が残るデザイン」を大事にしろということでした。また、この豊田市美術

館での功績により、2010年には豊田文化賞を受賞されました。

長いあいだ、デザインと人と社会とに関わってこられた寺光彦氏は、ある時は『寺先輩』またある時は『寺先生』、『寺学長』そして『寺館長』と立場を変えられてきましたが、いつでも柔和な顔、そしてあの独特の優しさあふれる声で接していられたことを思い出します。故・河野鷹思先生（元・愛知県立芸術大学学長）とご一緒にお会いした時も、あたかも仙人同士の会話が交わされているようで、ご一緒させていただいている小職は、とても有り難い講話を聞いているようでした。まさに至福のひとつときでした。

寺光彦氏は、素晴らしい人生と素敵な仕事を広げながら、多くの人材を残されていかれました。



早坂 功さんを偲んで

降旗英史

2015年11月2日、本学会名誉会員の早坂功さんが73年の生涯を閉じました。永い大学生活を終えた後も、山形のデザイン界を牽引し続けていた元気な姿から、彼の急逝は信じ難い驚きでした。

早坂さんとの出会いは、45、6年も昔のことです。私が出来たての大学院に進んだ時、岩手大学の講師であった早坂さんが、内地留学で母校に帰り、明石一男先生の研究室に席を並べるようになったときです。彼は当時、後にライフワークとなる「和時計の研究」に取り組み始め、デザイン学会で発表していました。2歳年長の彼が大先輩のように眩しく見えたものです。

授業の合間には、デザイン批判を繰り広げたり、デザインコンペに共同で応募したりもしました。授業が終わり5時を回ると、明石先生がやおらサントリーのダルマを取り出し、「お疲れさん」の発声で「ウィスキータイム」の始まりです。良い時代でした。

その後早坂さんは岩手大に戻り、後に山形大に転じます。私も二つの大学を渡り、その間の20年近くは、年に一度学会で旧交を温める付き合いが続ききました。1990年某日、思いがけない早坂さんからの電話で、2年後に山形に開学する東北芸術工科大学に移ることになり、昔の付き合いが再開しました。

早坂さんは、岩手大、山形大、東北芸工大において43年間に渡り、デザイン史と基礎造形、プロダクトデザインの研究教育に携わってきました。その成果の一端は、複数の著書と学会誌や紀要に発表した論文、多数の学会発表などで伺い知ることが出来ます。中でもデザイン学会を中心に発表を続け、ライフワークとなった一連の「和時計の研究」は、技術史、文化史、比較文化の広い視点から論究された重要な研究です。その業績と4期に及ぶ学会理事就任の貢献に対して、2013年、デザイ

ン学会より功労賞が授与されました。

「和時計の研究」が「静」のライフワークとすると、「動」のそれは郷土愛に根ざした山形のデザイン振興に関する活動でした。ここでは晩年の主要な活動を二つ上げておきます。一つは、山形のものづくりの産地と次世代を担う作り手の育成及び連携の支援を目的とする「山形デザインネットワーク」の設立です(1990)。2003年にNPO法人化するとともに、市民と作り手の交流の場としての「山形デザインハウス」の開設や、教育を通してデザイン意識の浸透拡大を図る「山形県高等学校デザインコンクール」などの関連活動を発展させてきました。早坂さんが生涯を通してやりたかったのは、これだったのではないかという思いが過りました。

二つ目は芸工大に関わることです。早坂さんは開学2年前から設立準備委員として尽力してきました。2010年に定年退職しましたが、翌11年東北芸術工科大学と京都造形芸術大学の法人統合の動きが急発進します。この統合が実質的な京都側への吸収であることを見抜いていた早坂さんは、「東北芸術工科大学を愛する会」を結成し、代表として文科省や県議会、市議会に請願書を提出するなどの働きかけをします。それが県市を動かし、法人統合の許可申請を撤回させる結果となりました。早坂さんのこの行動に私は深い尊敬の念を抱いています。

早坂さんとの山形でのお付き合いは、20年にも及ぶものになりました。青春の一時期と壮年期から晩年までを、彼と共に過ごし共に飲むことが出来たことは幸せなことだったと思います。やがて二人とも歳を取り、飲む機会もめっきり少なくなりました。2010年の早坂さんの定年退職と2年後の私の退職の内輪の送別会で、気の合う仲間と飲んだ「楽しい酒」が最後になりました。後者の席で、どんな文脈の中か記憶がありませんが、彼が「ふりはたさん、俺はもう思い残すことは何も無いんだ。いつコロッと逝ってもいいんだ。」と云った言葉が耳に焼き付いていました。その言葉どおり彼はあっけなく逝ってしまいました。

「そんなに死に急いで、本当に思い残すことは無いのか？」と問うもやもやした暗い霧が私を包んでいました。それを晴らしてくれたのは、葬儀で締め挨拶をした牧子夫人の言葉でした。「……私にはもう少し(生きてほしかった)という気持ちがありますが、やりたいことをやって思いどおりに生き、多くの人達から愛されてきた早坂は、きっと思い残すことはない幸せな人生を全うしたと思います。」というものでした。そうか、早坂さんは本当に思い残すこと無くコロッと逝ったのだ、これで良かったのだと素直に彼の死を受け入れることが出来ました。

早坂さん、楽しくやっていますか。いずれ私もそちらに行きます。また楽しい酒を酌み交わしましょう。

平成 28 年度春季研究発表大会報告

大会実行委員長 禹 在勇

今回の春季研究発表大会は、「ふるさととデザイン」をテーマに、平成 28 年 7 月 1 日（金）から 7 月 3 日（日）までの 3 日間、上田市の学校法人長野学園、長野大学と上田市交流文化芸術センター「サントミュージゼ」を会場に、長野大学の共催で開催されました。

本研究発表大会は、会員（496 名）を中心に市民など延 1,200 名の参加があり、大会開会式および一般公開の講演会（入場無料）など大変盛況に開催することが出来ました。

7 月 1 日（金）の講演会では、基調講演会に宮崎清氏（千葉大学名誉教授）、特別講演に、小松政夫氏（タレント、俳優）、野老朝雄氏（アーティスト、2020 年東京五輪・パラリンピックエンブレムをデザイン）を迎え、海外からの参加も含めた日本デザイン学会の会員に加えて、一般市民など延べ 500 人を超える参加がありました。

基調講演では、宮崎氏が『『ないない尽くし』からの出発—『人心の華』としてのふるさとづくり—』と題して講演されました。「意匠は心に始まり心に還る、途切れることなき思索と実践であり、慈愛力や感動力、人間力などを共有化していく作業ともいえる」とし、過疎化が進む奥会津の山村で取り組んだ「生活工芸村づくり」等の実践例を紹介しながら、「ふるさととは歴史であり個性である。地域づくりの出発点は地域の華の再確認にあり、内向きな普段着の発想で取り組むべき」と、ふるさとづくりの心構えについてお話いただきました。

特別講演では、小松氏が「面白い人達にあったよ—人間の本性を見つめるから笑劇になる—」と題して講演されました。芸能活動で人気を博するまでの経験を、ふるさとである福岡での幼少期から東京で活躍するまでの経験を、時に持ちネタを交えながら講演され、会場は笑いの渦となりました。

続いて、野老氏が「つながる／つなげる」と題して講演されました。野老氏は 2020 年東京五輪・パラリンピックの公式エンブレムに制作したデザインが採用され、今まさに注目を浴びているアーティストで、同氏のバックボーンにも触れながら、同エンブレムのデザインに至る発想と着想等についてお話いただきました。

以上の講演者はいずれも各分野での実績が注目される方々であり、今大会は好機を得たと大変感謝しております。

また、同日には 2 つのエクスカッションが実施されました。A コース：『大河ドラマで話題!! 真田丸ごと巡りツアー』（参加者 6 名）は、専用バスで真田一族発祥の地である「真田郷」と上田城跡公園を巡り、ドラマロケ地や資料館を訪れたほか、昼食では長野県を代表するグルメ「信州そば」を楽しみました。



開会式の様子



千葉大学宮崎清名誉教授による基調講演



俳優の小松政夫さんによる特別講演



野老朝雄さんによる特別講演

B コース『観光列車「ろくもん」に乗って、軽井沢駅特設ビアガーデンへ』は、学会員や地元の方々など約 90 名にご参加いただきました。2014 年 7 月より運行を開始したしなの鉄道の観光列車「ろくもん」に乗車し、このエクスカッションのために軽井沢駅プラットフォームに設えたビアガーデンに向かいました。「ろくもん」車内では、軽井沢の地ビールが振る舞われ、また、上田市にある岡崎酒造よりご提供いただいた「稲倉の棚田」で作られたお米を原料にした日本酒「銘酒亀齢（きれい）」を皆様にお楽しみいただきました。

7 月 2 日（土）からの研究発表大会では、デザイン学のさまざまな分野の取り組み、研究が発表されました。

また、企業展示には、地元長野県内の 9 企業・団体を含む、合計 11 の企業・団体に出展いただくことができました。

同日夜の懇親会は、会員や地域来賓など 200 名を超える人に参加いただき、盛大に催されました。大会実行委員会では信州上田という「ふるさと」を食から感じていただきたいと考え、「信州」「上田」にこだわったビュッフェの他、地域団体の協力による「地元料理コーナー」をご用意し、お楽しみいただ



エクスカーションの様子（観光列車「ろくもん」に乗って、軽井沢駅特設ビアガーデンへ）



2日目の懇親会の様子

きました。

オーガナイズドセッションは7月2日と3日に、長野大学でAからDの4つのセッションに分かれて行われ、一般にも公開されました。

オーガナイズドセッションAでは、「農業デザインのすゝめ」をテーマに松岡由幸・慶應義塾大学教授と禹在勇・長野大学教授がオーガナイザーを務め、県内の農業と関わりが深い4人がパネリストとして登壇しました。

6次産業化の新構想に向けた議論が急がれるなか、「いまこそ、農業にデザインの力が不可欠」との立場から、長野大学ではこれまで地域連携のもとに農業デザインに取り組んできた。セッションでは、単に農作物や食料品のデザインにとどまらず、農村やその地域における福祉の在り方までを視野に入れ、政策面の論考をまじえて今後の農業デザインの在り方について議論が行われました。

上田市農政課の小相澤隆幸氏とJA信州うえだ青年部長の柿島洋一氏は、上田市武石地域の農業の取り組み、酒米や大豆で波に乗っている「奏龍（なきりゅう）」ブランドづくりの現状などをそれぞれ発表されました。

元長野県職員で上田市の農産物マーケティング専門員の長谷川正之氏は、これまで県で行ってきた取り組みを、農畜産物の統一ブランドづくりや原産地呼称管理制度などの「プレミア

ム」、伝統野菜や郷土食の「ヘリテイジ」、シナノスイートや信州黄金シャモなど独自開発の「オリジナル」に分けて紹介されました。

次いで熊谷晃・長野県東京事務所長は、長野県のアンテナショップ「銀座 NAGANO」について紹介され、「フェア（祭りやイベント）」でなくて「シェア（体験などを通して信州のライフスタイルを日常に取り入れてもらう戦略）」の取り組みや、単に売るだけでなく、ストーリー性のある物品紹介、信州移住につながる取り組みで、来場者や売り上げ、一人当たりの購入金額が次第に増えている成果を報告されました。

オーガナイズドセッションBは、「デザイン保護法制の現状と課題」をテーマに開催され、デザインの創作実態とその法的保護との調和、および、各国のデザインの保護法制の課題を踏まえた国際的なデザイン保護法制のあり方などについて議論が行われました。

オーガナイズドセッションCは、「日本デザイン団体協議会（D8）が考えるジャパン・デザインミュージアム構想」をテーマに開催され、その役割には、デザインに関する調査・研究はもとより、ワークショップやセミナー開催の場として、デザインの普及・啓発が重要な機能となることやデザインの教育に繋がる可能性が議論されました。

デザインを職能とする団体協議会としての「D8」の基本的



オーガナイズドセッション Aの様子



オーガナイズドセッション Bの様子



オーガナイズドセッション Cの様子



オーガナイズドセッション Dの様子



研究発表（口頭）の様子



研究発表（ポスター）の様子



長野大学



日本デザイン学会総会の様子



閉会式の様子

なコンセプトの実現のため、戦後デザイン史の中で創出された多くの作品、製品そして施設等に、その背景にある社会事象、技術やデザイン理論等に関連付け、新たなデザインミュージアムの構築に繋がりたいという議論が行われました。

オーガナイズドセッション D は、「真田丸」ゆかりの古城のデジタルアーカイブ」をテーマに、上田城と小諸城の CG 復元の事例や教育と連動した取組を紹介しながら、古城の CG 復元の話から大学や自治体が地域デザインと情報デザインを融合させ、新たなデザイン研究に活かしていく方法が議論されました。

春季研究発表大会におけるこれらの様々なプログラムにより、単に学術研究発表の機会のみならず、上田市や東信地域、さらには長野県の豊かな文化・産業・自然等を、広く発信することができ、大会テーマ『ふるさととデザイン』を実現できた

ものと確信しております。

末筆ではありますが、今大会を「上田市合併 10 周年記念事業」および「長野大学創立 50 周年記念事業」の一環として、ご支援いただいたことにより、無事、盛況の内に開催することができました。

ここに改めて感謝の意を表すとともに、会員各位のますますのご発展を祈念し、開催結果報告といたします。

平成 28 年度総会報告

本部事務局

平成 28 年 7 月 2 日（土）、長野大学リプロホールにおいて、第 63 回総会が開催されました。司会進行は佐藤弘喜本部事務局長が行いました。司会から、出席者数は会場出席者約 64 名、委任状出席者が 284 名（定数 151 名）で、総会が成立することが報告されました。松岡由幸会長より、本年度の活動方針を「学会創設 100 年に向けて、今なすべきこと」とし、学会の体制基盤の構築、学術基盤の構築、活性化策の推進、社会貢献の強化の四つを基本施策として推進していきたいとの説明がなされました。議事は山崎隆之会員（長野大学）と遠藤忠会員（長野大学）の二人の議長団の司会で進行されました。國澤好衛副会長から平成 27 年度の活動報告があり、続いて小野健太本部副事務局長より平成 27 年度の決算報告がなされ、それに対し杉山・清水監査から監査報告がなされました。その後、会場からの質疑応答を経て議決の結果、承認されました。引き続き小林昭世副会長の平成 28 年度活動計画の説明、佐藤弘喜本部事務局長から平成 28 年度の予算案の説明があり、審議の結果、議決されました。

最後に、本学会の組織にとって重要な、法人化に関わる審議事項について國澤好衛法人化対策特別委員長より説明がなされ、法人化に際して必要な会則変更、一般社団法人の提案及び法人化の概要、任意団体の解散及び残余財産の処分に関する審議が、それぞれ質疑応答を経て議決の結果、承認されました。



写真 1：松岡由幸会長による平成 28 年度活動方針説明



写真 2：小林昭世副会長による平成 28 年度事業計画



写真 3：國澤好衛法人化対策特別委員長による法人化審議事項の説明

平成 28 年度学会各賞選考結果報告

学会各賞選考委員会

委員長 青木弘行

本年度の学会各賞選考結果を、下記のようにご報告いたします。

【推薦状況（各賞候補件数）】

会員、論文審査委員会、作品審査委員会、本選考委員会より推薦された各賞候補件数は、[学会賞：2 件、研究奨励賞：1 件、年間論文賞：3 件、年間作品賞：なし、特別賞：1 件、功労賞：1 件]であった。

【選考結果】

・功労賞：梨原 宏氏

事由：長年にわたる学会活動、及び学会運営における多大な貢献に対して。

・年間論文賞：角山朋子氏

「1918 年以前の「クラクフ工房」によるデザイン活動の様相—ウィーンの芸術思想からの影響と独自性」（Vol.62, No.6, pp1-10, 2015）

事由：デザイン学研究において貴重な研究成果であると同時に、今後の展開が多いに期待できる。

・特別賞：宮木慧子氏

事由：長年にわたるデザイン学の教育研究実践に寄与した特段の功績に対して。

平成 28 年 9 月 10 日

平成 28 年度学会各賞選考委員会

委員長 青木弘行

委員 庄子晃子

杉山和雄

原田 昭

松岡由幸

宮内 哲

宮崎 清

森 典彦

山中敏正

審査協力 久保光徳（論文審査委員長）

小林昭世（作品審査委員長）

2017 年度日本デザイン学会春季研究発表大会会告

2017 年度春季研究発表大会の日程と開催場所、大会テーマなどについてお知らせいたします。多数の会員のみなさまのご参加をお待ちしております。

1. 開催日：2017 年 6 月 30 日（金）～7 月 2 日（日）
2. 開催場所：拓殖大学文京キャンパス
所在地：〒112-8585 東京都文京区小日向 3-4-14
東京メトロ丸の内線 茗荷谷駅下車 徒歩 3 分
3. 大会テーマ：「慮る（おもんばかり）デザイン」（案）
4. 大会委員長：拓殖大学 学長 川名明夫
5. 大会実行委員長：拓殖大学 教授 岡崎 章
6. その他：宿泊に関しては、各自手配されたい。
なお、東京都区内のホテルは予約が取りづらいため、早めにご手配ください。

※詳細につきましては、準備が出来次第、日本デザイン学会ホームページ等にてお知らせいたします。

平成 28 年度第 4 回理事会議事録

日時■平成 28 年 7 月 2 日（土曜日）

11：30～13：00

場所■長野大学 上田キャンパス

4 号館 3 階 4-304

出席者■松岡、國澤、小林、井口、伊原、黄、大島、岡崎、岡本、柿山、櫛、久保（雅）、久保（光）、須永、滝本、田中、田村、寺内、益岡、村上、山田、山中、山本、柚木、禹、佐藤（弘）、小野、佐藤（浩）、加藤、吉澤

委任状出席■井上（征）、井上（貢）、内山、尾登、佐々木、永井、生田目、森田、柳澤

欠席■五十嵐、清水、工藤

1. 会長挨拶

松岡会長より挨拶がなされた。

2. 名誉会員の紹介（松岡会長）

野口尚孝名誉会員より、挨拶と近況報告がなされた。

3. 平成 28 年度第 3 回理事会議事録の承認

平成 28 年度第 3 回理事会の議事録が示され、原案通り承認

された。

【審議事項】

4. 平成 28 年度秋季企画大会について（小林大会実行委員）

小林大会実行委員より、平成 28 年度秋季企画大会に関する検討事項の説明がなされた。テーマは「デザイン哲学 ～豊かさを最高する～」とし、基調講演、特別講演、およびパネルディスカッションなどを企画していると報告がなされた。講演者やパネリストは交渉中であり、デザイン系学会の各会長や経済産業省からの講演者を検討しているとの説明がなされた。引き続き、講演者の決定やプログラムの詳細化を進めていくこととなった。

5. 平成 29 年度春季研究発表大会について（岡崎大会実行委員長）

岡崎大会実行委員長より、平成 29 年度春季研究発表大会について説明がなされた。6 月中の総会開催を考慮して、6 月 30 日（金）～7 月 2 日（日）の日程で文京キャンパスにて開催されることが決定した。発表会場の確保も完了し、今後はテーマやコンテンツの検討を進めていくこととなった。

6. 法人化対応について（國澤法人化対策特別委員長）

國澤法人化対策特別委員長より、総会に向けた準備状況について説明がなされた。7 月 2 日時点で 284 件の委任状が提出されているとの報告がなされ、総会において解散要件に関する会則変更が問題なく実施できるとの説明がなされた。総会における法人化の承認を得られた後は、手続きを進め、10 月 1 日（デザインの日）の法人設立を目指すこととなった。

7. 作品集投稿規定等の改正について（須永作品審査委員長）

須永作品審査委員長より、作品集投稿規定の改正案について提案がなされた。提案された作品集の投稿規定と執筆要領は承認され、web サイトに掲載することとなった。また、関連事項として、CiNii に掲載されている作品集の J-STAGE への移行時に、映像コンテンツは移行されないことが予想されるため、対応を検討する必要があるとの意見が挙げられた。

8. 会員の移動について（佐藤（浩）本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員 13 名（内外国人 3 名）、学生会員 6 名

退会：正会員 1 名、学生会員 1 名

が承認された。

9. その他

- ・機械工業デザイン賞におけるデザイン学会賞の追加について（松岡会長）

松岡会長より、機械工業デザイン賞におけるデザイン学会賞の追加について説明がなされた。審議の結果、デザイン学会賞を追加する方向で検討することとなったが、賞の趣旨や賞を出す時期などの詳細について後日改めて議論することとなった。

- ・平成29年度秋季企画大会について（岡本大会実行委員）

岡本大会実行委員より、平成29年度秋季企画大会について説明がなされた。はこだて未来大学での開催を検討中であり、多くの方々に参加していただけるようなプログラムを準備したなどの説明がなされた。また、今後の秋季大会においてはなんらかのかたちで研究発表の場を設けていくことが決定した。

【報告事項】

10. 論文集の発行と審査状況について（寺内論文審査委員長）

寺内論文審査委員長より、論文集の発行と審査状況について報告がなされた。6月新規投稿論文は8件、編集作業中論文は36件との説明があった。また、63巻2号（和文）と3号（和文）の発行準備を行っているとの報告がなされた。なお、審査期間の短縮に関する議論がなされ、今後、まずはデジタル化以降の審査・掲載期間の実態を明らかにし、報告することとなった。

11. 特集号の進捗について（井口学会誌編集・出版委員長）

井口学会誌編集・出版委員長より、特集号の進捗について報告がなされた。7月末には山中敏正先生の「日本デザイン学会60年の記録」が発刊されるとの説明がなされた。また、来年度の4冊については春季のセッション、秋季大会の内容等を充てることを検討しているとの報告がなされた。

12. ホームページの更新状況について（内山広報委員長（代）大島委員）

大島委員より、ホームページの更新状況について報告がなされた。現状の管理者リストとホームページの各ページリストの提示と説明がなされた。管理者リストの更新や各ページの担当者について今後議論していくこととなった。また、学会員の著書を紹介するページの作成も行うこととなった。

13. 会報の状況について（井口学会誌編集・出版委員長）

井口学会誌編集・出版委員長より、会報の状況について報告がなされた。担当は田中佐代子先生が担当し、次の会報を7月末に刊行される特集号に掲載するとの説明がなされ、準備を進めていくこととなった。

14. 次回運営会議（9/10）の議題について（佐藤（弘）本部事務局長）

佐藤（弘）本部事務局長より、以下の議題案が提示された。

・審議事項

1. 平成28年度秋季企画大会について（小林大会実行委員）
2. 平成28年度秋季企画大会学生プロポジションについて（小林大会実行委員）
3. 平成28年度学会各賞選考について（久保特設理事）
4. 平成29年度春季研究発表大会について（岡崎大会実行委員長）
5. 平成29年度秋季企画大会について
6. 法人化について（國澤法人化特別委員長）
7. 会員の移動について（佐藤（浩）本部副事務局長）
8. その他

・報告事項

9. 論文集の発行と審査状況について（寺内論文審査委員長）
10. 特集号の進捗について（井口学会誌編集・出版委員長）
11. 会報の状況について（井口学会誌編集・出版委員長）
12. ホームページ更新状況について（内山広報委員長）
13. 魅力向上活動について（松岡魅力向上委員長）
14. その他

（記録：佐藤（浩））

平成28年度第5回理事会議事録

日時■平成28年9月10日（土曜日）

15:00～17:00

場所■慶応大学 三田キャンパス 北館会議室1

出席者■松岡、國澤、小林、大島、岡崎、尾登、工藤、久保（光）、須永、田中、寺内、山中、佐藤（弘）、小野、佐藤（浩）、加藤

委任状出席■井口

欠席■内山、山本

1. 会長挨拶

松岡会長より挨拶がなされた。

2. 平成28年度第4回理事会議事録の承認

平成28年度第4回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成 28 年度秋季企画大会について（小林大会実行委員）

小林大会実行委員より、平成 28 年度秋季企画大会に関する準備状況の説明がなされた。プログラムと大会参加費が示され、承認された。また、当日の閉会式後は、法人化手続き完了報告会を兼ねた懇親会を実施するとの説明がなされた。

4. 平成 28 年度秋季企画大会学生プロポジションについて（小林大会実行委員）

小林大会実行委員より、平成 28 年度秋季企画大会における学生プロポジションの実施要項の説明がなされ、承認された。なお、賞の授与については閉会式で行う方針となった。

5. 平成 28 年度学会各賞選考結果について（久保特設理事）

久保特設理事より、学会各賞の選考結果について説明がなされた。選考の結果、平成 28 年度は、功労賞 1 件、年間論文賞 1 件、特別賞 1 件を授与することが報告された。なお、今後は審査協力として、前任の論文審査委員長と作品審査委員長が担当することとなり、次年度も久保前論文審査委員長と小林前作品審査委員長に審査協力をお願いすることとなった。

6. 法人化対応について（國澤法人化対策特別委員長）

國澤法人化対策特別委員長より、9 月 10 日時点で、定款は役場で確認済みであり、役員から必要書類を回収しているとの報告がなされた。また、登記業務については法人化対策特別委員会で進めていくとの説明がなされ、9 月 30 日の法人化申請に向けて準備を進めていくこととなった。

7. 平成 29 年度春季研究発表大会について（岡崎大会実行委員）

岡崎大会実行委員より、平成 29 年度春季研究発表大会について、予算とテーマの検討を進めているとの説明がなされた。テーマについてはいくつか候補が挙げられているが、「慮る」が有力な候補として検討されているとの報告がなされた。

8. 論文集の発行と論審状況（審査・掲載期間）について（寺内論審委員長・佐藤（浩）委員）

寺内論文審査委員長より、新規投稿論文は 7 月 7 件、8 月 9 件、9 月 2 件であり、この間に採択された論文は 8 件、不採択は 4 件との報告がなされた。また、佐藤（浩）論文審査委員より、2013 年以降の審査・掲載期間について報告がなされた。投稿完了から採択通知を受理するまでに 3 割程度の論文が 6 ヶ月以上を要しているなど、審査工程の遅延が浮き彫りとなり、今後、具体的な対策案を検討していくこととなった。

自動引き落とし手続きのお願い

当学会では、会費の自動引き落としが義務付けられております。すでに、半数以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済でない会員の方は、登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。また、口座引き落とし依頼書がお手元にない方は、本部事務局へご請求ください。

本部事務局

9. 英文ジャーナル設置の進捗状況について（久保特設理事・佐藤（浩）理事）

久保特設理事より、2018年度発行予定の新しい英文ジャーナルのJ-Stageへの申請が完了したとの報告がなされた。また、佐藤（浩）理事より、新しい英文ジャーナルのフォーマットに関する検討事項について説明がなされ、現行の論文集フォーマットの修正も視野に入れて検討していくこととなった。

10. Webサイトにおけるニュース投稿及び情報更新の権限について（内山広報委員長（代）大島委員）

大島広報委員より、Webサイトにおけるニュース投稿及び情報更新の権限について説明がなされた。9月10日時点でも、多くの委員会、支部、研究部会で十分なWebページ更新がなされていない状況にあるとの報告がなされた。その対策として、更新方法のマニュアルを含めて各委員会や支部等に更新のお願いをすることとなった。他の対策案として、学会全体に関連のあるページについては、情報源となる部署に個別に連絡することや年度末の活動報告書にWebの更新状況を報告してもらうなどが挙げられたが、引き続き議論していくこととなった。

11. 機械工業デザイン賞・日本デザイン学会賞設置に関して（松岡魅力向上委員長）

松岡魅力向上委員長より、機械工業デザイン賞におけるデザイン学会賞の追加について説明がなされた。設置に対する意義や特徴などの説明がなされ、審議の結果、設置することが決定された。

12. 概要集の価格について（佐藤（弘）本部事務局長）

佐藤（弘）本部事務局長より、年間購読会員に向けた概要集の価格について提案がなされた。本年度は、法人化による経費の推移が予測されることから、価格は据え置きにすることとなった。

13. 第1支部の予算について（岡本支部長（代）松岡会長）

松岡会長より、第1支部の活動費に関する利用変更の説明がなされた。隔年で開催していた研究会を毎年開催することに伴い、隔年30万円であった活動費を毎年15万円に変更してほしいとの要望があり、承認された。

14. 平成29年度秋季企画大会について（岡本支部長（代）松岡会長）

松岡会長より、平成29年度秋季企画大会についての準備状況の説明がなされた。大会は3日間を予定しており、内容としては研究発表会、学生プロポジション、および旧市街散策を

企画しているとの報告がなされた。

15. 会員の移動について（佐藤（浩）本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、

入会：正会員6名（内外国人1名）、学生会員4名（内外国人3名）

退会：正会員5名、学生会員3名

が承認された。

16. その他

・平成29年度Designシンポジウムについて（松岡会長）

松岡会長より、平成29年度Designシンポジウムの幹事学会が日本デザイン学会であるとの説明がなされ、承認された。具体的な進め方や時期については審議していくこととなった。

・作品集の審査状況について（須永作品審査委員長）

須永作品審査委員長より、作品集へ応募数が30件あったとの報告がなされた。今後、審査を進めていくこととなった。

【報告事項】

17. 特集号の進捗と来年度の企画案について（井口学会誌編集・出版委員長（代）田中委員）

田中委員より、5号分の特集号の進捗について報告がなされた。第23巻4号と第24巻2号分については予定通りに刊行できる見込みがあるが、原稿の入稿が遅れている第24巻1号については、引き続き催促を行っていくこととなった。また、第24巻3号と4号については、詳細な入稿計画を各編集担当者に作成していただくこととなった。

18. 会報状況について（井口学会誌編集・出版委員長（代）田中委員）

田中委員より、9月末に刊行予定の特集号に会報が掲載される予定との報告がなされた。

19. 魅力向上活動について（松岡魅力向上委員長）

松岡魅力向上委員長より、2017年以降の秋季企画大会に関する開催方針案について説明がなされた。春季大会との差別化を行うという前提のもとで、開催期間、予算、企画内容、および運営形態について魅力向上委員会で議論した結果、開催期間は2日か3日間とし、予算は準備金として1日あたり25万円（上限50万円）を支給する案が挙げられたとの報告がなされた。

20. その他

・法人化後の研究部会の位置づけについて（小林研究推進委員長）

小林研究推進委員長より、法人化後の研究部会の位置づけに関

する書面を作成しているとの報告がなされた。関係者の多い次回の理事会において審議事項として詳細を説明することとなった。

・作品集の審査状況について（工藤前学会誌編集・出版委員）

工藤前学会誌編集・出版委員長より、J-Stage 作品集ページにおける Web ページ上の巻数と PDF ファイル上の巻数が一致していない箇所があり、その部分を訂正したとの報告がなされた。

（記録：佐藤（浩））

献本御礼

◆機関誌

TAMABI News 71、2016 年 7 月、多摩美術大学

木の文化 FORUM 第 13 号、2016 年

多摩美術研究 第 5 号、2016 年 9 月、多摩美術研究編集委員会

◆報告書

工学教育研究講演会 講演論文集、2016 年 9 月、公益社団法人

日本工学教育協会

◆図書

〈知の統合〉は何を解決するのか、横幹 〈知の統合〉シリーズ編集委員会、2016 年 4 月、東京電機大学出版社

カワイイ文化とテクノロジーの隠れた関係、横幹 〈知の統合〉

シリーズ編集委員会、2016 年 4 月、東京電機大学出版社

会員の移動

◆平成 28 年度第 5 回理事会承認 2016.09.10

新入会

正会員 6 名（内海外会員 1 名）

石川 新一 齊藤 憲仁 橋口新一郎 宮岸 幸正

安 浩子 孫 元

学生会員 3 名（内海外会員 2 名）

宇井 吉美 賀 暁琳 Intan Prameswari

退会

正会員 5 名

木村 博之 興膳生二郎 松本 正二 松本 徹

山崎 絵莉

住所不明で戻ってくる郵便物が
増えております。

住所変更は確実にお願いします。

届出は文書にてお願いします。

転居される方は、FAXまたは

綴じ込みの「入会届け」に

朱書きで「変更届け」と書き添えて、

事務局までご連絡ください。

ホームページ

http://jssd.jp/files/change_regular.pdf にも

様式が掲載されておりますので

ご利用ください。

退会等の届出も必ず文書にて

お願いします。

本部事務局

学生会員 3 名

長塩 真也 中田 成人 真家 優子

◆平成 28 年度第 6 回理事会承認 2016.10.01

新入会

学生会員 3 名 (内海外会員 1 名)

有田実花子 川口 一画 戴 勇強